

# 男女共同参画講演会記録



2019年2月26日に盛況に終わりました男女共同参画講演会ですが、「当日参加できなかったけど内容が知りたい!」「もっと地域の人に広めるべき!」とのお声を受け、ご講演いただきました丹羽先生のご協力のもと、パートナー掲載内容に合わせて、講演内容の一部をお伝えできることとなりました!(※パートナーの本文は講演会を参考に編集してあるものです)

## 男女共同参画の視点から 地域防災を考える

(男女共同参画講演会より)

国立女性教育会館 専門職員

丹羽 麻子

内閣府の調査によると、震災直後からの避難所の生活で困ったことで、男女差が一番大きくなったのは「プライバシーが確保されていない」ことでした。

実際、間仕切りの無い避難所がたくさんありました。仕切りのある避難所であっても居住スペースが丸見えで、そこで着替えをしたり、睡眠をとったりしなければなりません。専用のスペースがなければ授乳も不自由です。さらに、物資の不足も、避難所生活の中で女性が困ったことの一つでした。特に女性から要望が多かったのは、生活用品やおりの用ライナーといった女性用品、粉ミルク、哺乳瓶、哺乳瓶用消毒剤などの乳幼児用品でしたが、他にも化粧品、リップクリーム、ハンドクリームなどの要望がありました。

こうした日常生活では当たり前の環境や不可欠な品であっても、その重要性が地域で認識されていなければ避難所には備えがなく、「みんな大変だから」「我慢して当然」という雰囲気の下で改めて必要を言い出す

のはとても難しいことなのです。

また災害下では、性暴力やDVといった女性に対する暴力に遭うリスクも高まりますが、その防止策も非常に不十分です。

災害時に男性より女性が困っていたのは、女性が本質的に弱い存在だからではありません。

地域の防災に関わる女性がとても少なく、まだまだ男性が中心になっている現状では、女性が持っている情報が活かされる体制になっておらず、女性の支援ニーズが把握されにくいからです。

たとえば、女性から「おりもの用ライナー」の要望が多かったといわれて、すぐに必要性が理解できる男性はどれくらいいるでしょうか。女性に必要な物資が不足したり、環境が整わなかったりするのは、その必要性と対策を知る女性が準備段階や避難所運営に関わっていなかったことに原因があります。

地域社会は、高齢者、子ども、障がい者、単身者、外国人など、多様な人々で構成されています。しかしその全ての人に關わる基本的な属性が性別です。さまざまな場面における性別による格差を是正していくことが、地域の災害対策として重要であるゆえんです。

災害が起きてから急に男女共同参画を、と言ってもうまくはいきません。平常時から男女共同参画でのまちづくりを実践し、協議(話し合い)、協働(力を合わせる)でき

る関係性をつくるのが地域防災の強化に直結します。

性別格差の少ない社会ほど、災害のダメージが少なく復興も早いことが国際的にも知られています。

国の「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」では、避難所を開設・運営する際に男女のニーズの違いや子育て家庭等に配慮することが必要なことから、避難所チェックシートや備蓄品のチェックシートを示しています。

熊本地震では、熊本市男女共同参画センターがこうしたチェックシートを使って市内の避難所を回り、環境の改善に効果を上げました。縣市でも地域住民の皆さんに活用いただくために「避難所運営マニュアル」を作成しており、その中で男女共同参画の視点に立った災害対策を示しているとお聞きしました。ぜひ地域で共有し、活用していただきたいと思います。

男女の視点を取り入れた災害対策を進めるには、防災訓練や地域防災計画づくり等に男女が共に参画していくことが大切です。防災は日常からです。皆で協力してもしもの時に備えましょう。

※性的マイノリティも重要な属性ですが、今回は「男女共同参画」をテーマとしていることから、「男性」「女性」に焦点を当てています。